告　辞

桜の花が舞い、本格的な春の到来を感じさせる本日、新たに佛教大学の新入生となられます皆さん、ご入学おめでとうございます。佛教大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、本日まで、大学院への入学を決意された皆さんを支え、その意思の実現に向けて応援してこられたご家族や関係者の皆さまに、心からお喜び申し上げます。

本日より皆さんは佛教大学の大学院生として、新しい環境に身を置き、新たな研究に向き合うというステージで、最初の一歩をスタートすることになります。

佛教大学はこれまで一貫して、仏教精神を根底に、自分を大切にし、他者をも大切にできる人、そんな人材を社会に輩出して 111 年となり、通信教育課程は 1953 年 4 月に開設され、実に 70 周年を迎えました。さらに、通信制大学院は 1999 年に修士課程を、2003 年に博士後期課程を開設し、大学院設置基準にもとづく正規の高等教育機関として、時間や距離の制約を乗り越え、いつでもどこでもだれでも研究に従事できる場を提供しています。

本学の建学の理念であります仏教精神とは、仏教を開かれた釈尊と浄土宗を開かれた法然上人に共通の生き方を指します。それは眼の前に起こる現実を正しく見据え、自分のなすべきことをしっかりと行なっていくことに他なりません。

佛教大学で研究を志す皆さんには、それぞれの研究の過程で仏教精神に触れ、目の前にある研究材料をしっかり分析し、自分にできる「知の探究」を行っていただきたいと思います。

そのために是非、知的な「想像力」をかきたてましょう。想像力こそ、人間が人間であるための「智慧」の力の一つです。昨日を思い、千年の過去に思いをめぐらす力。明日を求め、未来を描く力。宇宙の果てにたどり着きたいという思い。空間のあらゆる場所を想像し、時間のあと先を想像することにより仮説が立てられ、それを実証することで学問は発展してきました。皆さんは、それぞれが所属する研究科、専攻で、想像力に磨きをかけ、仮説を立てて実証し、自らの知見を確立してください。それぞれの学問で得た知見と佛教大学の仏教精神を受け継ぎ、さらなる生きる力としていただきたいと思います。

さて、新型コロナウイルス感染症は落ち着きを見せ、5月8日から季節性インフルエンザと同等の5類へと移行します。本学もこの4月から、感染症拡大防止のために制定した活動基準による運用を停止いたしました。私たちも皆さんと共にポストコロナの新しい一歩を踏み出します。しかし感染症が終息したわけではありません。今後もウイルスは変異し、いつ感染拡大が進むとも限りませんので、個人個人で基本的な感染対策を行い、注意しながら、これからをいっしょに歩んでまいりましょう。

ロシアのウクライナ侵攻は一年を経て、いまだ終息する兆しがありません。本学は仏教精神に基づき人類福祉の増進に貢献することを使命として世界の平和を願い、活動しています。一方的な理屈によって他者の命を奪い尊厳を踏みにじる行為には断固として反対し、停戦と平和的な解決を求めています。私たちは、今も苦しみの中にあるウクライナの人たちに心を寄せ、一刻も早く平和な状態が戻ることを願い、いま自分ができることを行なっていかなければならないと考えます。

世界中で紛争や人権問題など、様々な困難な状況があり、また地震や自然災害等も頻発するなかで、場所を奪われ、命を落とす方、傷ついた方もあるでしょう。私たちは誰もがそのような状況に遭遇する可能性があります。だからこそ、そういった人々の存在に気づくことが大切です。

大学院で学べる環境にあることに感謝し、新たな学生生活のなかで研究者、専門書と出会い、他者と認め合いながら、想像力に磨きをかけ、困難に直面している人のことを思い、多様性や平和の意義なども学びつつ、自らの研究に向き合いましょう。

これらの学びが、きっと研究活動に幅を持たせ、大学生活を充実させることとなるでしょう。そして皆さんの人間性にも影響を与える、何物にも代えがたい時間につながっていくことを願っています。お一人お一人がアカデミズムにおける、それぞれにとっての真理の探究に邁進していただくとともに、今起きているさまざまな現実から目をそらすことなく、自分がなすべきこと、自分にできることをしっかりと捉え、誰もが幸せになる豊かな未来を求めて、研究の道を歩んでいただくことを念願いたします。

入学されましたすべての皆さんが、本学大学院での研究活動を通じて、それぞれの目的にそって着実に研究を進め、あきらめることなく所期の目的を達成されますことを心から祈念し、告辞といたします。

ご入学おめでとうございます。

令和５年４月８日

佛教大学長　　伊藤　真宏